筑波大学開学30周年（創基131年）
筑波大学附属図書館報　2003年9月
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY BULLETIN
ISSN　0285-0117

つくばねvol.29no.2

● 目次

1　館長時代の思い出
3　開学30周年特別企画「本学図書館所蔵の貴重書」①
本学図書館所蔵の貴重書（和書）の中から
5　開学30周年特別企画「活字と歩んだ筑波大学の30年」②
「速報つくば」の誕生とあゆみ
7　大学図書館職員長期研修について
8　平成15年度大学図書館職員長期研修を受講して
9　図書館情報学実習生　実習体験記
10　Ask Us としょかんミニガイド
11　本学教官寄贈著書紹介
12　私の一冊
14　掲示板
16　とぴっくす

館長時代の思い出

学長　北原　保雄

１ はじめに

本学は今年開学30周年を迎えたが，附属図書館も開学と同時に発足しているから，開設30周年を迎えたことになる。本学の附属図書館は所蔵資料の豊かさと利用のしやすさが高い評価を受けているが，当然のことながら，最初から現在のように整備されていたわけではない。もちろん発足時の設計がよかったからだが，それだけでなく，その後も改善への不断の努力が続けられてきたからである。

私は，平成５年４月から平成９年３月までの４年間，第10代館長としてよき人々に恵まれ，図書館発展のために尽力することができた。しかも，この期間は課題山積で，努力のしがいのある時期だった。思い出を含めて，この間の附属図書館の発展の歩みを振り返ることを許されたい。

２ 電子図書館化への取組み

本学では，すでに昭和54年に，全国に先駆けて大型計算機によるオンライン目録システム（ＴＵＬＩＰＳ）を開発し，計算機ネットワークにより学内外の研究者にオンライン目録検索サービス（ＯＰＡＣ）を提供してきていた。しかし，平成２年，図書館について全学的見地から検討を行うことになり，評議会のもとに図書館将来計画委員

会が設置された。私もその委員の一人に選ばれたが，委員会におけるさまざまな課題についての突っ込んだ検討が，後に館長になった時にとても役立つことになった。委員会は，翌平成３年，図書館の電子化の必要性等について評議会に答申した。この答申を受けて，平成３年７月に図書館電子化専門委員会が設置され，また，専門委員会のもとに研究者を中心とする電子図書館システム研究班が設置されて，電子図書館システム整備計画（平成３年度～平成５年度）が策定された。

私が館長に就任したのは，この整備計画の最後の年だったが，平成６年６月には，評議会のもとに置かれていた専門委員会と研究班が附属図書館長のもとに移管され，第Ⅱ期電子図書館システム整備計画（平成６年度～平成８年度）の策定がなされた。学長裁量経費から３年間で12000万円余の配分があり，システムの整備はかなり進展した。この実績が高く評価されて，平成９年度から本学附属図書館には，国立大学最初の電子図書館として「高度発信型電子図書館システム」が導入されることとなった。

このシステムは，本学で収集・生産・蓄積された学術的価値の高い資料の原文を電子化し，全世界に向けて発信するものだが，学位論文の全文入力の第１号に私の論文を指定してもらったのも嬉しい思い出である。なおこれには裏話があって，私の論文は書籍として刊行されており，その出版社も電子化を快諾していて出版権の問題は全くなかったのに，オリジナルの方がいいというような理由で，原稿用紙にペン書きの学位申請論文の方が電子化されている。手書きの文字を見るのは毎度恥ずかしいことである。

３　中央図書館新館の建設

電子化とともに重要課題だったのは，中央図書館の増築である。中央図書館の蔵書はすでに収蔵能力をはるかに超えているのに，毎年５万冊ほどの書籍が増え続けている。増築の概算要求は昭和58年から10年以上継続して行ってきていた。

図書館将来計画委員会の答申においても増築が急務であることが強調され，これを受けて，平成３年には図書館増築実務委員会が設置され，増築の基本計画を策定し，実務レベルの調査・検討が重ねられた。しかし，なかなか概算要求は認められない。新館を建てた館長は銅像が建つなどという人もいるほどの難題で，長い間の懸案だった。

それが私が館長に就任した年の補正予算で認められたのだ。私は幸運に心から感謝した。いつの日だったかは忘れたが，よく晴れた日の朝早い時間だった。小野寺事務局長から館長室に電話がかかった。平成５年度の第２次補正予算で，増築の概算要求が認められたという報せだった。私は狂喜した。局長の声も興奮ぎみでやや上ずっているように聞こえた。

平成６年４月５日に起工式，平成７年３月に竣工，そして，同年６月１日には中央図書館新館竣工披露式が盛大に開催されたのだった。

４　常設展，特別展のこと

新館が完成して，貴重書や和装本関係の施設が充実した。貴重書庫は完璧のものになったし，壁面展示ケースを設け，照明装置等にも配慮した貴重書展示室も新設された。

早速，貴重書展示室で，新館完成を記念して特別展「天正少年使節と『原マルチノの演説』」を開催することになった。開催期間は平成７年６月１日から８日まで，新館披露を兼ねてのものだった。その後も，貴重書展示室では，平成８年10月23日から11月10日までの長期間，特別展「幕末・明治の生活と教育」を開催し，多数の来館者があった。

私が館長を退任してからも，何回かの特別展が開催され、今年も９月29日から10月10日までの間、「附属図書館貴重図書特別展」が開催されることになっているが，いささか残念だったのは，平成12年５月22日から６月９日にかけて開催された特別展「筑波大学附属図書館所蔵日本美術の名品」を，私の館長時代に開催できなかったことである。この特別展では，石山寺本の「大智度論」「瑜伽師地論」などと，今回新発見の狩野探幽・尚信の屏風絵などが展示されたのだが，前者の仏典類は，戦後，私の所属する研究室の先生が購入した，私

にとっては美術品というよりは専門分野の研究書であるし，後者の屏風絵は館長として調査すれば発見できたはずのものである。

それはともかく，貴重書展示室では，平時は，常設展「日本の出版文化」が継続開催されることになっている。展示室開設の時から図書館公開係が置かれるようになったが，これは大学図書館では珍しい係ではないか。

５　図書館ボランティアのこと

図書館ボランティア受入れに関する検討委員会が設置されたのは，就任早々の平成５年４月19日だったが，検討に時間がかかり，図書館ボランティアの公募を開始したのは平成７年３月16日になってしまった。５月30日に発足式が行われ，選ばれた43名の方々に活動時に着用するネームプレートとボランティア許可証を私から交付した。生涯学習に対応した大学図書館サービスを展開するために導入したものだが，国立大学での図書館ボランティアは初めてだということでマスコミや類似の組織などに注目された。

平成７年12月５日には図書館部職員とボランティアの交流会が持たれ，また，平成８年６月４日にはボランティア発足一周年を記念して，記念式を開催し，私が記念講演を行った。今，私の手元に「図・ボラの会」広報部編集発行の「うたがき」創刊号（1996.９.２）がある。これには，私も期待する一文を載せているが，現在も「うたがき」は健在とのこと，嬉しいことである。

６　終わりに

４年の間にはまだまだいろいろな発展があった。平成６年４月には，国立大学図書館協議会関東地区の常任的地区連絡館となった。初めて関東地区の代表的理事館となったのである。平成８年２月には，図書館専用電子計算機システムを更新した。この時は学術情報処理センターの大型計算機との関係調整がいささか大変だった。同年３月には，附属図書館概要（和文・英文）を全面改訂し，また，筑波大学和漢貴重図書目録を刊行した。そして，個人文庫を設置できるように規定を改め，同年10月と11月に，宇野文庫と竹内文庫の寄贈を受けた。また，平成９年３月には，大型コレクション「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案資料」を購入することができた。

個人的には平成８年８月12日，集会室で還暦の祝賀会を盛大に催してもらったことが忘れられないし，親睦会による暑気払いや忘年会も楽しかった。この文章には個人の名前は出さなかったが，それぞれの場面で多くの人の顔が浮かんできた。関係者の皆さんには，その場面を思い浮かべながらお読みいただければ幸いである。

（きたはら・やすお　筑波大学長）

開学30周年記念特別企画「本学図書館所蔵の貴重書」①

本学図書館所蔵の貴重書（和書）の中から

大倉　浩

今回の開学30周年特別企画に展示する貴重書の選定を，日本文学の石埜先生とお手伝いしましたが，日ごろは目録や写真でしかお目にかかれない貴重書も，改めて実見してみると色々とわからないこと，見直しが必要なことが出てきます。この機会に，私の専門である中近世の日本語に関連する貴重書について，図録に書ききれなかったことを少し書かせていただき，御覧になる皆さんに何か参考にしていただければと思います。